

鳥類



(1) レッドリスト種（鳥類）の概要

レッドリスト種に選定した鳥類は、33種でした。表4-5にカテゴリーごとの種数・概要を示します。

選定された33種の中に、「絶滅・野生絶滅」はありませんでした。トキは1945年に穂高地域で2羽目撃事例(南安曇郡誌)がありますが、繁殖記録はありません。

「絶滅危惧Ⅰ類」は、10種でした。ウズラは1963年の豊科地域での確認、セッカは1990年の明科地域での繁殖以降、記録がありません。

「絶滅危惧Ⅱ類」は、5種でした。ヨタカのように繁殖地の日本だけでなく、越冬地である東南アジアの環境変化の影響を大きく受けていると思われる種もありました。

「準絶滅危惧」は、10種でした。生息環境は森林、草原や水辺等、環境全般に渡っていました。特に水辺の鳥は、河川の安定化による環境の変化が減少の大きな要因でした。

「情報不足」は、8種でした。多くは警戒心の強い鳥やフクロウ等、夜行性の鳥です。今後の生息状況を注意深く見ていく必要があります。

表4-5 鳥類レッドリスト種の概要

レッドリストカテゴリー	種数	選定した種の概要
絶滅 (EX)	0	・絶滅に該当する種は選定されませんでした。
野生絶滅 (EW)	0	・野生絶滅に該当する種は選定されませんでした。
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	9	・高山帯に生息するライチョウ、山地帯から亜高山帯に生息するイヌワシ、河川・水辺に生息するヒクイナ、コアジサシ等を選定しました。
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	5	・山地帯に生息するミゾゴイやヨタカ、河川・水辺に生息するササゴイ、ヤマセミ等を選定しました。
準絶滅危惧 (NT)	10	・山麓部・平野部から山地帯に生息するハチクマ等や河川・水辺に生息するイカルチドリ等を選定しました。
情報不足 (DD)	9	・山麓部・平野部から山地帯に生息するアオバズク、トラフズク等や河川・水辺に生息するクイナ等を選定しました。

(2) 危惧される減少要因

選定された 33 種の内訳は、留鳥 13 種、夏鳥 17 種、冬鳥 3 種でした。すべての鳥の減少要因は、日本及び安曇野周辺の環境の変化に起因しています。しかし夏鳥、冬鳥とも、国外の越冬地や繁殖地の森林破壊や開発等も大きな要因となっていると思われます。

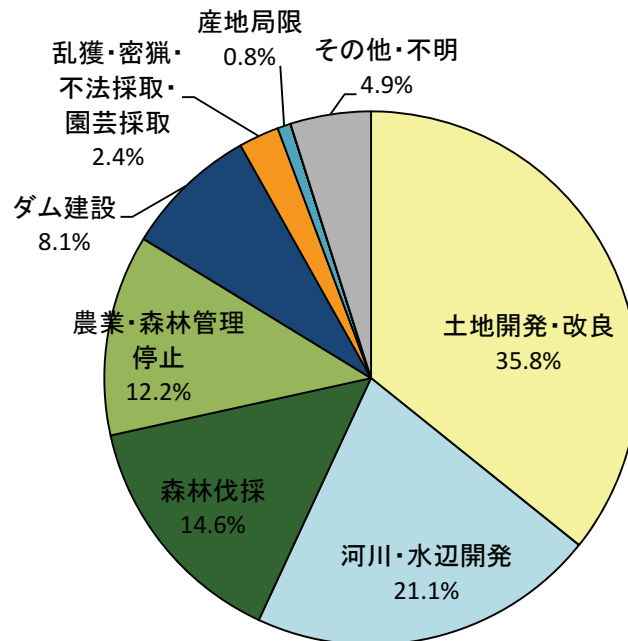


図 4-3 鳥類レッドリスト種の減少要因の割合

ライチョウ (キジ目 ライチョウ科)

Lagopus muta



生息環境



安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

長野県：絶滅危惧ⅠB類

EN

CR+EN

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

VU

●**特徴**：全長約 37cm。季節により色彩が変わり、春から夏は、雄は全体的に黒褐色、雌は茶褐色です。冬は雌雄ともほぼ全身が白くなります。主に植物の葉や種子を食べます。【国指定特別天然記念物・長野県指定希少野生動物種】

●**生息環境**：標高約 2,400m 以上の高山帯のハイマツ林や草原などに生息します。オコジョ、テン、チョウゲンボウなどが主な天敵です。

●**国内の分布**：留鳥。北アルプス、南アルプス、乗鞍岳、御岳山などに分布します。以前は中央アルプスや八ヶ岳にも生息していました。

●**市内の分布**：燕岳、大天井岳、常念岳、蝶ヶ岳の高山帯に生息しています。

●**減少要因**：生息域は高山帯に限られています。そのため温暖化、天敵の増加、ニホンジカの進出などにより高山帯の環境が変化すると、個体数が急速に減少する可能性があります。

参考文献 No.

4, 9, 15, 16, 17, 143, 144

ウズラ (キジ目 キジ科)

Coturnix japonica



生息環境



安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

長野県：絶滅危惧ⅠA類

CR

CR+EN

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

VU

●**特徴**：全長約 20cm。丸い体つきで尾は短く、体の上面は淡褐色で、黒と淡褐色の縦斑があります。秋から冬にかけて小規模の群れを作ります。雑食性で昆虫類や種子などを食べます。

●**生息環境**：山地帯や河川敷、牧草地など草原に生息します。

●**国内の分布**：留鳥。本州中部以北で繁殖し、西日本などで越冬します。

●**市内の分布**：犀川河川敷や農地などで生息が確認されていましたが、1970 年以降確実な記録はありません。

●**減少要因**：圃場整備や河川改修などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.

4

ヨシゴイ (ペリカン目 サギ科)

Ixobrychus sinensis



生息環境



安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

長野県：絶滅危惧Ⅱ類

VU

CR+EN

環境省：絶滅危惧ⅠB類

EN

●**特徴**：全長約 37cm。体は黄褐色で、飛ぶと翼の先が黒くみえます。繁殖期にはオーオーと低くもった声で鳴き、主に魚やカエルなどを食べます。天敵が近づくと体を立てて首を伸ばし、周辺の植物に擬態をして隠れます。

●**生息環境**：池沼や河川敷のヨシやガマなど、背の高い植物が茂る湿地に生息します。

●**国内の分布**：夏鳥。北海道から九州まで渡来します。

●**市内の分布**：犀川などの河川敷に生息していましたが、2003 年以降確実な記録はありません。

●**減少要因**：圃場整備や河川改修などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.

4, 19, 32, 59

ヒクイナ (ツル目 クイナ科)

Porzana fusca



安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

長野県：絶滅危惧Ⅱ類

VU

CR+EN

環境省：準絶滅危惧

NT

●**特徴**：全長約 23cm。全身は褐色で、目と脚は赤色が目立ちます。主に昆虫類やカエル類、植物の種子などを食べます。繁殖期には、次第にテンポが速くなる連続性のある声で、キョキョッキョッキョッと鳴きます。

●**生息環境**：水田や河川の湿地状の草原に生息し、イネやスゲ類など草丈の低い植物を使って巣をつくります。

●**国内の分布**：夏鳥。ほぼ全国に渡来します。西日本では越冬するものもいます。

●**市内の分布**：河川敷や水田などでまれに生息が確認されるだけで、近年はほとんど記録がありません。2013 年に穂高の水田で繁殖が確認されました。

●**減少要因**：圃場整備や河川改修などによる、生息地の悪化が考えられます。

参考文献 No.

4, 14, 15, 16, 17, 19, 32, 59

コアジサシ (チドリ目 カモメ科)

Sterna albifrons



安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

長野県：絶滅危惧Ⅱ類

VU

CR+EN

環境省：準絶滅危惧

NT

●**特徴**：全長約 25cm。体の上面は青みのある灰色、後頭部は黒く、下面は白色です。ホバリング(停空飛翔)しながら、空中からダイビングをして小魚を捕らえます。

●**生息環境**：砂礫地の中州がある河川、海岸、埋立地などに生息します。

●**国内の分布**：夏鳥。本州以南に渡来します。繁殖地は比較的限られています。

●**市内の分布**：犀川、高瀬川及び三川合流周辺の中州で繁殖していましたが、1998 年以降確実な繁殖の記録はありません。

●**減少要因**：ダムや河川改修などによる中州の減少や、カラスなどによる捕食、人間の立ち入りなどによる生息地の悪化が考えられます。

参考文献 No.

4, 15, 17, 19, 32, 41, 42, 54, 59

イヌワシ (タカ目 タカ科)

Aquila chrysaetos



安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

長野県：絶滅危惧ⅠB類

EN

CR+EN

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

VU

●**特徴**：全長 75~85cm。雌雄同色。成鳥は黒褐色ですが、頭頂周辺は金茶色です。若い個体は翼と尾の一部が白くみえます。主に哺乳類、鳥類、ヘビ類を食べます。【国指定天然記念物・国内希少野生動物種・長野県特別指定希少野生動物種】

●**生息環境**：主に山地帯から亜高山帯に生息し、庇状になっている岩棚に巣を作ります。

●**国内の分布**：留鳥。北海道から九州に分布します。推定生息数は150~200 ペア、総計で約 500 羽とされています。

●**市内の分布**：主に山地帯から亜高山帯に生息していますが、現在、確実な繁殖記録はありません。

●**減少要因**：ノウサギなど餌動物の減少、伐採跡地など狩り場の減少、奥地開発などによる生息地の悪化などが考えられます。

参考文献 No.

4, 9, 16, 19, 42, 52, 59, 64

クマタカ (タカ目 タカ科)

Nisaetus nipalensis



生息環境



安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

長野県：絶滅危惧ⅠA類

CR

CR+EN

環境省：絶滅危惧ⅠB類

EN

●**特徴**：全長 70～80cm。顔は黒く頭には冠羽があります。お腹は白っぽく、黒い横斑があります。飛ぶと翼の幅が広くみえます。主に哺乳類、鳥類、ヘビ類を食べます。【国内希少野生動植物種・長野県指定希少野生動植物種】

●**生息環境**：山地帯から亜高山帯の森林に生息し、アカマツやウラジロモミなど常緑針葉樹の大木に巣を作ります。

●**国内の分布**：留鳥。北海道から九州に分布します。

●**市内の分布**：山地帯から亜高山帯に生息しています。個体数と繁殖地は限られています。

●**減少要因**：奥地開発や森林伐採などによる生息地の減少や悪化が考えられます。

参考文献 No. 4, 16, 42, 52, 64

アカモズ (スズメ目 モズ科)

Lanius cristatus



生息環境



安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

長野県：絶滅危惧ⅠB類

EN

CR+EN

環境省：絶滅危惧ⅠB類

EN

●**特徴**：全長約 20cm。体の上面は赤褐色で、下面は白色です。目の周りは黒い線があります。昆虫類やカエル、トカゲなどを食べます。

●**生息環境**：山麓部・平野部から山地帯の明るい林や低木のある草原、畑地、果樹園、神社などに生息します。

●**国内の分布**：夏鳥。北海道、中部地方以北に渡来します。

●**市内の分布**：一部地域に少数が渡来し、繁殖しています。

●**減少要因**：山麓部・平野部の開発や農業の衰退などによる生息地の減少のほか、越冬地である東南アジアの生息地の悪化が考えられます。

参考文献 No. 4, 14, 16, 19, 32, 42

セツカ (スズメ目 セツカ科)

Cisticola juncidis



生息環境



安曇野市：絶滅危惧Ⅰ類

長野県：絶滅危惧ⅠA類

CR

CR+EN

環境省：—

—

●**特徴**：全長約 13cm。体の上面は黄褐色で黒色の縦斑があり、下面は淡い黄褐色です。昆虫類やクモ類を食べ、繁殖期にはヒッヒッヒッヒッ、ジャッジャッジャッと鳴きながら、波線状に低空を飛行します。

●**生息環境**：チガヤやヨシなどが生える山麓部・平野部から山地帯の草原や水田、河川敷、牧草地などに生息します。

●**国内の分布**：夏鳥。本州から九州に渡来します。一部の地域では、越冬するものもいます。

●**市内の分布**：犀川や高瀬川周辺などで繁殖していましたが、1990年を最後に確認されていません。移動の時期にはまれに確認されません。

●**減少要因**：圃場整備や河川改修などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 4, 9, 14, 15, 17, 19, 32, 59

ミゾゴイ (ペリカン目 サギ科)

Gorsachius goisagi



安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

VU

長野県：絶滅危惧Ⅱ類

VU

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

VU

●**特徴**：全長約 49cm。体は赤みが強い褐色で、お腹には縦縞があります。昆虫類やサワガニ、ミミズなどを食べます。外敵が近づくと体を立てて首を伸ばし、周辺の木々に擬態します。鳴き声からポーポー鳥と呼ばれることもあります。

●**生息環境**：山麓部や山地帯のスギやヒノキなど常緑針葉樹林や針広混交林の暗い林に生息します。

●**国内の分布**：夏鳥。本州から九州、伊豆諸島に渡来します。

●**市内の分布**：山麓部で確認されており、繁殖している可能性もあります。

●**減少要因**：森林伐採や開発などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 4, 16, 42

ササゴイ (ペリカン目 サギ科)

Butorides striata



安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

VU

長野県：準絶滅危惧

NT

環境省：—

—

●**特徴**：全長約 52cm。頭は黒く、背中は青緑色と黒褐色、お腹は灰色です。頭の冠羽が目立ちます。主に魚類やカエル、サワガニ、水生昆虫などを食べます。

●**生息環境**：河川、湖沼、湿地などの水辺に生息します。

●**国内の分布**：夏鳥。本州から九州に渡来します。

●**市内の分布**：1991 年まで豊科の犀川で繁殖していましたが、それ以降確実な記録はありません。

●**減少要因**：河川改修や森林伐採などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 4, 14, 15, 17, 19, 59

ヨタカ (ヨタカ目 ヨタカ科)

Caprimulgus indicus



安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

VU

長野県：絶滅危惧Ⅱ類

VU

環境省：準絶滅危惧

NT

●**特徴**：全長約 29cm。体は褐色や黒色、白色が混じった枯葉のような複雑な模様です。夜行性で、飛びながらガや甲虫などを食べます。繁殖期にはキョキョキョキョとよく通る声で鳴きます。

●**生息環境**：山麓部・平野部から山地帯の草原や河川など、開けた環境がある林に生息します。

●**国内の分布**：夏鳥。北海道から九州に渡来します。

●**市内の分布**：山麓部から山地帯に生息しています。繁殖期の夜間や明け方に声を聞くことができます。

●**減少要因**：森林伐採などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 4, 16, 18, 19, 25, 26, 28, 32, 36, 42, 52, 69, 146

ヤマセミ (ブッポウソウ目 カワセミ科)

Megaceryle lugubris



安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：準絶滅危惧

NT

VU

環境省：—

—

●特徴：全長約 38cm。体の上面は白と黒のまだら模様で、下面は白くみえます。頭には冠羽があり、魚類をダイビングして捕まえます。

●生息環境：河川上流部や山間部のダム湖などに生息します。

●国内の分布：留鳥。北海道から九州に分布します。

●市内の分布：烏川上流域や山麓部の河川などに生息しています。

●減少要因：河川改修などによる巣穴を作る崖などの減少が考えられます。

参考文献 No.

4, 14, 15, 16, 17, 19, 25, 26, 28, 32, 36, 41, 42, 59

ハヤブサ (ハヤブサ目 ハヤブサ科)

Falco peregrinus



安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類

長野県：留意種

N

VU

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

VU

●特徴：全長 40～50cm。体の上面は青みのある濃い灰色で、下面は白くみえます。顔にはひげのような斑があります。飛びながら主に中型鳥類を捕まえます。

●生息環境：断崖のある海岸や山地帯、河川、草原などに生息します。最近、都市部のビル街でも生息が確認されています。

●国内の分布：留鳥。北海道から九州に分布します。

●市内の分布：市街地から山麓部・平野部、山地帯まで、広範囲で通年確認されています。しかし、個体数は少なく、繁殖については不明です。

●減少要因：開発による生息地の悪化が考えられます。ビルなどで繁殖した場合、人間活動が影響を与える可能性があります。

参考文献 No.

4, 18, 19, 32, 41, 42, 52, 54, 59, 64, 67

チュウサギ (ペリカン目 サギ科)

Egretta intermedia



安曇野市：準絶滅危惧

長野県：絶滅危惧Ⅱ類

VU

NT

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

VU

●特徴：全長約 69cm。全身は白く、目の先は黄色くみえます。くちばしは、夏は黒く冬は黄色です。繁殖期は背中に飾り羽があります。畑地や水田などで、昆虫類やカエルなどを食べます。

●生息環境：水田や河川などの水辺に生息し、繁殖期は他のサギ類とコロニーを作ります。

●国内の分布：夏鳥。本州から九州に渡来します。

●市内の分布：春秋の移動の時期に、水田で確認されます。2000 年頃までは、穂高で繁殖が確認されていました。

●減少要因：平野部の開発や農業の衰退などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.

4, 19, 32, 42, 43, 52, 59, 66

イカルチドリ (チドリ目 チドリ科)

Charadrius placidus



安曇野市：準絶滅危惧

長野県：準絶滅危惧

NT

NT

環境省：—

—

●**特徴**：全長約 21cm。コチドリに似ていますが、目の周りの黄色いリング状の模様は目立ちません。主に河原で昆虫類を食べます。繁殖期にはピッピッピッと歯切れよく鳴きながら飛び、危険が迫ると擬傷をおこないます。

●**生息環境**：河川の草がほとんど生えていない砂礫地に生息します。

●**国内の分布**：留鳥。本州から九州に生息します。

●**市内の分布**：犀川や穂高川、高瀬川などの河原に生息しています。

●**減少要因**：河川改修による中洲などの生息地の減少が考えられます。

参考文献 No.

4, 9, 14, 15, 16, 17, 19, 25, 26, 28, 32, 34, 35, 36, 41, 42, 52, 54, 59

コチドリ (チドリ目 チドリ科)

Charadrius dubius



安曇野市：準絶滅危惧

長野県：絶滅危惧Ⅱ類

VU

NT

環境省：準絶滅危惧

NT

●**特徴**：全長約 16cm。体の上面は茶褐色で額は白く、目の周りの黄色いリング状の模様が目立ちます。主に畑地や河原で昆虫類を食べます。繁殖期にはピュウピュウピュウと甘く鳴きながら飛びます。

●**生息環境**：河川や造成地などの、草がほとんど生えていない砂礫地などに生息します。

●**国内の分布**：夏鳥。本州から九州に渡来します。西日本以南で少数が越冬します。

●**市内の分布**：犀川や穂高川、高瀬川などの河原やその周辺に生息しています。

●**減少要因**：河川改修による中洲などの生息地の減少が考えられます。

参考文献 No.

4, 9, 14, 15, 16, 17, 19, 32, 38, 42, 52, 54, 59

ハチクマ (タカ目 タカ科)

Pernis ptilorhynchus



安曇野市：準絶滅危惧

長野県：準絶滅危惧

NT

NT

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

VU

●**特徴**：全長約 60cm。雄の顔は灰色で目は暗褐色、雌は目が黄色。個体により羽の色や模様の違いがみられます。クロスズメバチなどハチ類を主食とします。

●**生息環境**：山麓部から山地帯の森林に生息し、主にアカマツなどの常緑針葉樹に巣を作ります。

●**国内の分布**：夏鳥。北海道、本州、九州などに渡来し、繁殖します。

●**市内の分布**：山麓部から山地帯に生息していますが、数は多くありません。

●**減少要因**：開発や森林伐採などによる、生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.

4, 16, 17, 19, 42, 52, 59, 64, 69

ハイタカ (タカ目 タカ科)

Accipiter nisus

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：準絶滅危惧

NT

NT

環境省：準絶滅危惧

NT



生息環境



●特徴：全長 30～40cm。雄は体の上面は青みのある灰色で下面は白くみえます。雌の上面は雄に比べると褐色にみえます。主に小型鳥類を食べます。

●生息環境：山麓部・平野部から亜高山帯の森林に生息し、主にカラマツなどの常緑針葉樹に巣を作ります。

●国内の分布：留鳥。北海道から九州に分布します。冬季に移動するものもいます。

●市内の分布：山麓部から山地帯に生息していますが、数は多くありません。冬季は平野部でもみられます。

●減少要因：開発や森林伐採などによる、生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.

4, 14, 16, 17, 19, 32, 41, 42, 52, 59, 64, 67

オオタカ (タカ目 タカ科)

Accipiter gentilis

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：準絶滅危惧

NT

NT

環境省：—

—



生息環境



●特徴：全長 50～60cm。体の上面は青みがある灰色、下面は白色で横斑があります。若鳥の上面は茶褐色で、胸に縦斑があります。主に中型鳥類を食べます。

●生息環境：山麓部・平野部から山地帯の森林に生息し、主にアカマツなどの常緑針葉樹に巣を作ります。

●国内の分布：留鳥。北海道から九州に分布します。冬季に移動するものもいます。

●市内の分布：山麓部・平野部から山地帯に生息していますが、数は多くはありません。

●減少要因：開発や森林伐採などによる、生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.

16, 17, 19, 32, 41, 42, 52, 54, 59, 64

サンショウクイ (スズメ目 サンショウクイ科)

Pericrocotus divaricatus

安曇野市：準絶滅危惧

長野県：絶滅危惧Ⅱ類

VU

NT

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

VU



生息環境



●特徴：全長約 20cm。体は細く尾は長くみえます。雄は体の上面が黒色なのに対して、雌は灰色です。飛ぶと翼に白い線がみえます。主に昆虫類を食べます。

●生息環境：山麓部から山地帯の森林に生息し、落葉広葉樹林を好みます。

●国内の分布：夏鳥。本州から九州に渡来します。

●市内の分布：山麓部から山地帯の林に生息しています。秋季には群れでの渡りがみられます。

●減少要因：開発や森林伐採などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.

4, 15, 16, 19, 25, 26, 28, 32, 36, 38, 42, 52, 59

サンコウチョウ (スズメ目 カササギヒタキ科)

Terpsiphone atrocaudata



生息環境



安曇野市：準絶滅危惧	長野県：絶滅危惧Ⅱ類	VU
NT		環境省：—

●特徴：全長は、雄は尾が長く約 45cm、雌は約 18cm。顔からのどにかけては黒く、コバルト色のアイリングが目立ちます。ハチやチョウなど、飛翔する昆虫類を食べます。

●生息環境：山麓部から山地帯の常緑針葉樹林が多い暗い林に生息します。

●国内の分布：夏鳥。本州から屋久島に渡来します。

●市内の分布：山麓部から山地帯に生息し、スギ林など営巣しますが、その数は多くはありません。

●減少要因：開発や森林伐採などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 4, 9, 14, 15, 17, 19, 42, 59

ホオアカ (スズメ目 ホオジロ科)

Emberiza fucata



生息環境



安曇野市：準絶滅危惧	長野県：準絶滅危惧	NT
NT		環境省：—

●特徴：全長約 16cm。頭は灰色で、背中には黒い縦斑があります。頬が白いホオジロに似ていますが、頬は赤褐色です。昆虫類や植物の種子などを食べます。

●生息環境：山麓部から亜高山帯の草原や牧草地、水田の畦などに生息します。

●国内の分布：夏鳥。北海道から九州に渡来します。本州の西南部で越冬するものもいます。

●市内の分布：山麓部の開けた場所や水田の畦、河川敷の草地に生息していますが、その数は多くはありません。

●減少要因：山麓部・平野部の開発や農業の衰退、河川改修などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 4, 14, 15, 16, 19, 32, 42

ノジコ (スズメ目 ホオジロ科)

Emberiza sulphurata



生息環境



安曇野市：準絶滅危惧	長野県：準絶滅危惧	NT
NT		環境省：準絶滅危惧

●特徴：全長約 14cm。体の上面は灰緑色で黒い縦じまがあります。下面は黄色に近く、脇に灰緑色の縦斑があります。雄は目の周りが白くみえます。昆虫類や植物の種子を食べます。

●生息環境：山地帯の落葉広葉樹林に生息し、沢筋や湿地脇などの湿った場所を好みます。

●国内の分布：夏鳥。本州（東北地方及び中部地方）に渡来します。繁殖地は日本だけが知られています。

●市内の分布：山麓部から山地帯に生息していますが、その数は多くはありません。

●減少要因：開発や森林伐採などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 4, 14, 16, 18, 19, 25, 26, 28, 32, 36, 42, 52, 59

クイナ (ツル目 クイナ科)

Rallus aquaticus



安曇野市：情報不足

長野県：情報不足

DD

DD

環境省：—

—

●**特徴**：全長約 29cm。全身は褐色で体の上面に黒い縦斑があります。くちばしは春から夏は赤く、秋になるとほとんど黒くなります。主に昆虫類や甲殻類、魚などを食べます。

●**生息環境**：河川、湖沼、水田などの水辺の草むらに生息します。

●**国内の分布**：冬鳥。冬鳥ですが、北海道と本州の一部では繁殖が確認されています。

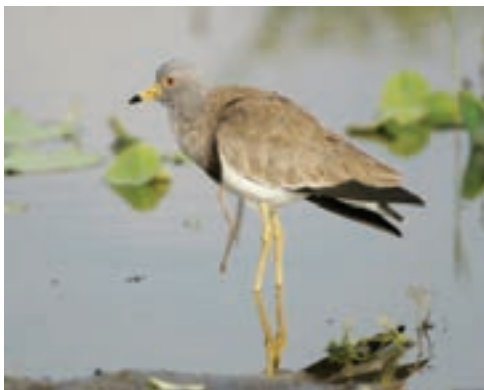
●**市内の分布**：犀川周辺の湖沼や湿地に生息していますが、警戒心が強くその姿はあまりみられません。

●**減少要因**：河川改修などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 4, 16, 17, 19, 32, 42

ケリ (チドリ目 ケリ科)

Vanellus cinereus



安曇野市：情報不足

長野県：—

—

DD

環境省：情報不足

DD

●**特徴**：全長約 35cm。雌雄同色。上面は褐色で下面は白く、胸には黒褐色の帯があります。警戒心が強く、繁殖期には鋭い声で鳴きながら攻撃をします。畑地や水田などで、昆虫類やカエルなどを食べます。

●**生息環境**：農地や湿地、河川などに生息し、その中や周辺に巣を作ります。

●**国内の分布**：留鳥。本州中部以北を中心に分布します。冬季は暖地に移動します。

●**市内の分布**：1990年代に少数が繁殖しましたが、現在は生息していません。まれに移動途中の個体が確認されます。

●**減少要因**：圃場整備や河川改修などによる生息地の悪化などが考えられます。

参考文献 No. -

ヤマシギ (チドリ目 シギ科)

Scolopax rusticola



安曇野市：情報不足

長野県：情報不足

DD

DD

環境省：—

—

●**特徴**：全長約 34cm。体の上面は赤褐色で、頭頂部から後頭部に黒い横斑があります。夜行性で昆虫類やミミズなどを食べます。

●**生息環境**：山麓部から山地帯の森林や河川、湿地に生息します。

●**国内の分布**：本州中部以北で繁殖し、冬になると暖かい地方へ移動するものもいます。

●**市内の分布**：まれに生息が確認されますが、夜行性であることから、詳しいことは不明です。

●**減少要因**：森林伐採や河川改修などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 4, 17, 32, 42, 59

タマシギ (チドリ目 タマシギ科)

Rostratula benghalensis



安曇野市：情報不足

DD

長野県：絶滅危惧ⅠB類

EN

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

VU

●特徴：全長約 24cm。雌雄異色。一般的な鳥類とは反対に雄よりも雌のほうが目立つ色合いで、抱卵や雛の世話は雄がおこないます。主に昆虫類やミミズなどを食べます。

●生息環境：水田、湿地、湖沼などの、低い草丈で水があるところに生息します。

●国内の分布：留鳥。主に中部地方以南に生息します。

●市内の分布：1990年代まで、生息や繁殖が少数確認されていました。1997年以降確実な記録はありません。

●減少要因：圃場整備や河川改修などによる、生息地の悪化が考えられます。

参考文献 No. 32

オオコノハズク (フクロウ目 フクロウ科)

Otus lempiji



安曇野市：情報不足

DD

長野県：準絶滅危惧

NT

環境省：—

—

●特徴：全長 24～26cm。コノハズクより少し大きく、目は橙色です。夜行性でネズミ類などの哺乳類や鳥類、昆虫類などを食べます。

●生息環境：山麓部・平野部から山地帯の森林に生息します。冬は公園や社寺林、屋敷林に生息するものもいます。

●国内の分布：留鳥。ほぼ全国に分布します。冬になると暖かい地方へ移動するものもいます。

●市内の分布：山麓部から山地帯に生息しています。三郷の屋敷林で越冬する個体が確認されたことがあります。

●減少要因：森林伐採などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 4, 16, 18, 32, 52

コノハズク (フクロウ目 フクロウ科)

Otus sunia



安曇野市：情報不足

DD

長野県：絶滅危惧Ⅱ類

VU

環境省：準絶滅危惧

NT

●特徴：全長 19～22cm。体には複雑な斑紋があります。体は全体的に灰褐色ですが、赤橙色の個体も少数います。目は黄色です。夜行性で昆虫類や哺乳類、鳥類などを食べます。ブッキョッコーと鳴きます。

●生息環境：山麓部から亜高山帯の森林に生息し、谷が深い場所を好みます。

●国内の分布：夏鳥。北海道、本州に渡来します。

●市内の分布：山地帯の森林に生息していますが、数は多くはありません。

●減少要因：森林伐採などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 4, 16, 18, 19, 42

アオバズク (フクロウ目 フクロウ科)

Ninox scutulata



生息環境



山麓部
平野部



安曇野市：情報不足

DD

長野県：絶滅危惧Ⅱ類

VU

環境省：準絶滅危惧

NT

●特徴：全長 27～31cm。頭部から体の上面は黒褐色で、体の下面は太い縦斑があります。目は黄色です。夜行性で昆虫類やコウモリ、小型鳥類などを食べます。

●生息環境：山麓部・平野部から山地帯の森林、大きい木のある公園や社寺林に生息します。

●国内の分布：夏鳥。ほぼ全国に渡来します。

●市内の分布：平野部の社寺林や、山麓部から山地帯の森林に生息していますが、その数は多くはありません。

●減少要因：森林伐採などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.

4, 17, 19, 32, 42, 52, 146

トラフズク (フクロウ目 フクロウ科)

Asio otus



生息環境



山麓部
平野部



安曇野市：情報不足

DD

長野県：絶滅危惧Ⅱ類

VU

環境省：—

—

●特徴：全長 35～40cm。頭に耳のような羽角があり、目は橙色です。下面には黒い縦斑と細い横斑があります。夜行性でネズミ類などの哺乳類や鳥類を食べます。

●生息環境：山麓部・平野部から山地帯の森林に生息します。冬は公園や河川敷の林など人家の近くに生息するものもいます。

●国内の分布：冬鳥。本州中部以北で繁殖します。冬になると暖かい地方へ移動するものもいます。

●市内の分布：主に冬鳥として渡来します。山麓部・平野部の社寺林や人家や果樹園近くの林、などに生息しています。

●減少要因：森林伐採などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.

4, 19, 32, 42, 52, 59

コミミズク (フクロウ目 フクロウ科)

Asio flammeus



生息環境



草原
耕作地



安曇野市：情報不足

DD

長野県：絶滅危惧Ⅱ類

VU

環境省：—

—

●特徴：全長 35～41cm。模様はトラフズクと似ていますが、羽角は小さく目は黄色です。ネズミ類などの哺乳類や鳥類を食べます。

●生息環境：埋め立て地や河川内の草原、水田などの開けた環境に生息します。

●国内の分布：冬鳥。ほぼ全国に渡来します。

●市内の分布：冬鳥として、犀川や高瀬川などの河川敷やヨシ原などに生息していますが、その数は多くはありません。

●減少要因：森林伐採などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.

16, 17, 19, 32, 41, 52, 59